



現在、多くの登山者が訪れる利尻山ですが、その歴史を紐解くと、古くは最上徳内や間宮林蔵など江戸時代に活躍した探検家が登山を試みています。当時から、利尻山は信仰の対象として「利尻大権現」と崇められ、航海の目印あるいは豊漁を願い祀られてきました。

明治時代に入り近代化が進むと、測量や観測、植物採集などで登山するケースが増加します。

また、宗教登山としては、紀州の天野磯次郎という行者が、地元民とともに明治 23 年現在の湾内地区から登山を試み、不動明王像を山頂（北峰）に安置したといわれます。このとき登山道を切り開くのに3ヶ月を要したといわれ、たいへんな苦勞の末、現在の登山道の基礎を築いたといえます。安置された不動明王像や棟上札などは、現在鷺泊の大法寺に保管されています。

利尻山において、本格的な気象観測が行われた最初は、明治 29 年 8 月、当時の北海道庁によるものでした。観測所は山頂に設けられ、8月の毎日（1日12回）について、気温や湿度、風向、雨量、雲量、天気などが観測され、ほかに動植物の分布や飲用水の記述がみられ、詳細な観測日記も記されています。

また、報告書中、特筆すべきことは、8月9日に皆既日食が観測され、毎時の記録が残されていることです。日食の写真はありませんが、スケッチが掲載されています。

北海道三景の募集は、小樽新聞社が大正12年5月8日に創刊30周年を迎え、累号1万号が年内に達成されることを記念して行われました。募集期間は同年5月18日から7月31日まで行い、道内外からの投票総数は約392万票を数えました。その投票結果は、8月12日の小樽新聞紙面上で発表され、利尻富士は第1位で56万2749票を獲得、「利尻富士は愉快的な山 思い切り長く裾を引いた山形は美しい極み」と評されました。以下、僅差で定山溪、洞爺湖とつづき三景が決定しました。

石碑は、三景当選を記念し、小樽新聞社により翌大正13年に北見神社境内に建てられ、12月18日に除幕式が行われました。そのときのようすは、12月29日の小樽新聞で、「偶然か否か 建碑と共に霊峰 霊を排して現はる 鬼脇有志連日の努力」と題されて掲載されました。また、石碑の台座の大きな石は、鬼脇村民によってアフトロマナイ川より8日間かけて運ばれたとも報じています。

さらに、石碑建立をきっかけに、小樽新聞社・北日本汽船株式会社による利尻山登山・観光ツアーが昭和5年7月に行われました。26日に小樽から船で出発し、翌朝鬼脇登山道に登って鷺泊ルートから下山し小樽へ戻るのが28日という強行スケジュールでした。それに加え夏場の暑さも手伝って、登山をした300名余のうち60名ほどが食中毒にかかり、死亡者も出すなど散々なツアーとなったようです。

◆この件に関するお問い合わせは、利尻富士町教育委員会（電話0163-82-1370）まで



不動明王像



北海道三景之碑